地域の公園をきれいに使いたい　緑を増やしたい

～２団体が公園の里親に～

３月８日と25日、市内２団体が公園の里親に認定されました。公園里親制度は、住民ボランティアが公園の清掃や緑化作業などを行い、親代わりになった気持ちで公園を管理する制度です。

３月８日、バンブー公園のサブグラウンドの里親に、中央幼稚園や千本桜植える会などが中心となって構成する地域団体が認定されました。

さっそく、認定式当日に、園児が花の植え方を教わりながら、花壇を作りました。

園長の鴨宮錦さんは、

「花壇への水やりなどを通して、園児がやさしい心を育んでくれれば。」

と活動に期待を寄せます。

また、園児の宮本航くんは、

「花を植えて楽しかった。これからも水やりをしたい。」

と話してくれました。

３月25日には、忠海中町の内掘公園の里親として「芝生ファンクラブただのうみ」の認定式がありました。

地域住民で構成する芝生ファンクラブただのうみは、公園の芝生化において、精力的な活動を行っています。代表を務める北方雅之さんは、

「子どもが安心して利用できる公園に、そして、高齢者が安らげる公園にしていきたい。」

と今後の活動に意欲をのぞかせました。

雛人形が彩る町並み

～たけはら町並み雛めぐり～

２月11日～３月21日、たけはら町並み雛めぐりが開催され、町並み保存地区内の施設で、様々な年代の雛人形が飾られた他、各種イベントが行われました。

今年の雛めぐりでは、初めての試みとして、期間中、たけはらかぐや姫と観光ガイドによる町並みガイドも行われました。

無料で町並み保存地区や雛人形について丁寧にガイドしてもらえるこのイベント。市内の家族連れや観光客など、毎回約30人が参加し、興味深くガイドに耳を傾けながら町並み保存地区を歩く姿が見られました。

また、２月27日には、昨年に続き２回目の開催となる子ども雛めぐりが行われ、約30人の子どもが華やかな着物に身を包み、観光客や保護者のみなさん、地域の人に見守られながら町並み保存地区を練り歩きました。

「ひなまつりの歌」が流れると、子どもたちも一緒に「灯りをつけましょぼんぼりに～」と可愛らしく歌っていました。

保護者のみなさんも子どもたちの晴れ姿に満面の笑顔でした。

災害に備えて

３月６日、竹原西小学校グラウンドで、第２回竹原第５地区協働のまちづくりネットワーク自主防災訓練が開催されました。「訓練は積み重ねが大切」と、住民と関係機関合わせて約 180 人が参加し、水防訓練や応急救護訓練等を体験しました。

夜もテニスコートを使用できます

３月 19 日、バンブー公園のテニスコートの照明設備が完成し、４月から夜間も使用できるようになりました。仕事帰りに運動したい、夜しか時間が空かないという人にとって使いやすいテニスコートになりましたので、ぜひご利用ください。

たけはら公共交通時刻表が完成！

３月 31 日、JR・バス・船・タクシーの情報を一つにまとめた時刻表が完成しました。４月号広報と一緒に配布していますので、ご活用ください。なお、現在 JR 呉線は、震災の影響で便数減となっています。お出かけの際は、JR へ時刻をご確認ください。

新ご当地グルメ　竹原たけめし誕生

３月 29 日、竹原タケノコ料理推進協議会が竹原産のたけのこを使用した新・ご当地グルメ「竹原たけめし」を発表しました。完成発表会では、たけめしの定義・ルールの発表、提供店舗による協定調印式、試食会が行われました。

女性消防団員から防災を学ぶ

３月８日、竹原小学校で、５年生の児童が消防団第６分団の女性５人から防災について学びました。

児童は分かりやすく工夫された人形劇から「自助・公助・共助」について学び、また、火災に遭遇した際、身を守るために必要な行動を覚えました。

５年生の中谷光輝くんは、児童を代表して「家に帰って家族と防災の話をしたいです。ありがとうございました。」と団員のみなさんにお礼を言いました。

また、分団長の山登純子さんは、「小学校での啓発活動は初めての試み。私たちにとっても良い勉強になりました。」と話してくれました。

献血と障害について考えよう

３月 20 日、市民館で献血と障害について考えるシンポジウム「元気のおすそわけ」が開催されました。

シンポジウムでは、TSS のアナウンサーである石井百恵さんが司会を務め、献血活動や障害支援に携わる人が意見を交わしました。

また、市民館前では、献血も行われ、75 人が献血に協力しました。

献血の多くは、病気の治療に使われています。みなさんの協力によって得られた血液が、どこかで病気と闘う人々の命を支えているかもしれません。